

未来を切り拓く志の力

三井物産 ④

挑戦する企業



三井物産が手がける事業に、総合商社としては珍しいものがある。企業に対し、従業員の満足度を高めるサービスを提供するE X事業だ。その領域は社員食堂などの給食事業、ユニホームのレンタル、施設管理など多彩。三井物産E X事業部長の大芝芳隆は「三井物産側で事業の種をまく」と明かす。その現場では、三井物産グループの事業会社が活躍している。三井物産は重点テーマ

従業員満足度向上支援

である。攻め筋の一つにウエルネスエコシテム（食と健康）を位置付け、E X事業に力を注ぐ。生産人口の減少を背景に企業の人材確保が難しくなる中、従業員の満足度向上が離職率の低減や生産性の向上などに寄与するとみるためだ。

給食に関わる幅広いニーズに対応。設立50年の知見も武器だ。2023年三井物産の完全子会社となり、海外展開にも機動的に動けるようになった。その一例として、シンガポールの航空サービス大手SATSとの協業

三井物産が出資するユニホームレンタル大手ウエアラ（東京都中央区）も、E X事業の成長に欠かせない1社だ。例えば工場で働く従業員の場

離職率低減・生産性アップ

海外展開も視野

E X事業をけん引するのが、給食事業子会社で国内大手のエムサービ（東京都港区）だ。多ス（東京都港区）に「栄養指導で何か海外が在籍し、社員食堂など

E X事業部長の大芝は、エムサービに在籍する公認スポーツ栄養士21人（3月末時点）を活用し、海外のナショナルトレーニングセンター向けに「栄養指導で何か海外にノウハウを展開できないか」と探る。

E X事業では、すでに導入企業では、すでに離職率の低下や働きやすさの向上といった効果が



従業員の満足度を向上する付加価値の提供に取り組む（エムサービ）

で貢献する施設管理では、三井物産フォーサイト（東京都港区）の存在も大きい。20年に東京・大手町に竣工した三井物産の新社に関わったノウハウを生かした、複合的な提案が強みだ。

三井物産は30年をめぐりに、E X事業の投下資本利益率（ROIC）を10%程度（25年3月期は約4%）に引き上げる考

間がかかる。これをレンタルにすれば、従業員の負担を大幅に減らせる。E X事業部長の大芝は、E X事業で「笑顔になれる体験をつくる」ことを重視する。思い描くのは、顧客企業の従業員満足度を高め、その企業のサービスを受け取るユーザーの感動につなげる好循環だ。（敬称略）

好循環つくる

働きやすい環境づくり

好循環だ。（敬称略）